

## 音が「意味」するものとは 7

## 『息と声と記憶と感情』

文 光吉俊二

text by Shunji Mitsuoyoshi

人は「おぎゃー」と最初の呼吸と感情の叫びをあげて生まれ、最

期は息を引き取り、情動の終焉を迎えます。カロリンスカ研究所（スウェーデン）や海外の先端医学研究の現場では、呼吸と感情と記憶の関係（三位一体）が相当理解され、極端な言い方をすると、知性も感情の一部でしかないと思

識されています。これは、医療研究による神経レセプタの解明からわかってきたことですが、感情の定量計測研究は極めて少なく、呼吸の研究はすでにカロリンスカではなくなっていると聞きます。

残る研究は脳科学だけです。計測装置の限界を超える研究は工学的には無理になってきています。

そこで、医療研究者と連携して、音声から神経や脳の状態を生理定量反応計測としてセンシングする研究を、世

界各国の医療法人や大学とはじめました。日本政府を除く多くの国内企業からの支援や協賛を得てはきましたが、海外政府関係からの熱烈な招致があり、このたび国外での基礎研究展開に踏み切る決心をしました。

どうやら、私の思いとは異なり、日本の政府の基準は私の研究には向かなかったようです。前例のないものは、この国では「イノベーション」ではないようです。明治以降、欧米での先行研究の焼き直しにしか価値を認めない文化になってきているようです。判断者の心や感性の質の違いを感じます。

しかし、医療の世界だけはそのような慣習に毒されていないようで、国内のいたるところで支援を受け、実用化に向けての研究開発がスタートしており、音声感情認識（ST）はすでに商品化され、利益も上がっています。

「うつ」「不安障害」の神経特徴を、声から正確に瞬時に測れる音声生理計測技術（PST）は、今の日本にこそ早急に必要であると、私は信じています。しかし、残念ながら日本はおそらく医療機器ではなく、健康機器として逆輸入することになるような気がします。それによって生じるタイムラグにより、多くの自殺者を救えないのが、同じ国民としてなによりつらいです。

## Profile

日本の情報工学者であり彫刻家。北海道札幌市出身。多摩美術大学美術学部彫刻科卒業。徳島大学大学院工学研究科博士後期課程修了、現在、博士（工学）。元スタンフォード大学バイオロボティクス研究所 Visiting Scientist（客員科学者）。現在、東京大学非常勤講師、株式会社AGI代表取締役である。専門は、ST（Sensibility Technology）感性制御技術・VER 音声感情認識技術、音声脳神経分析技術。

